

社報「うむい」について

沖縄の言葉で「想い、願望、考え、所存」のことを「ウムイ」といい、戦争で亡くなっていった人達の思い、そして残された遺族、戦友達の想いを次の世代へと継承すべくつけられた名前。

日清戦争以後、敢然と国難に立ち向かっていった先人たちの尊い精神が、この「うむい」を通して末代まで受け継がれ、真に戦争の無い平和な世の中になるようにとの願いが込められている。



4月23日に除幕された天皇・皇后両陛下歌碑(P4・5掲載)

第五十三回秋季例大祭を迎えて 会長 座喜味 和則



「残暑お見舞い申し上げます」。酷暑の夏も過ぎ秋冷の季節を迎えましたが、崇敬者の皆様には益々健康の事とお慶び申し上げます。

去る四月二十三日は「第五十三回春季例大祭御創建七十五年記念事業完功奉祝祭典」を盛大に肅行ご覧の通り見事な社務所や広々とした境内が整備され風格ある沖縄県護国神社となりました。これひとつに皆様の「ご支援に寄るもので誠に有難く感謝に堪えません」。

この春季例大祭の際、午前より雨が降ったり止んだり天候でしたが大祭開式の午後一時直前に雨が止みました。私は「英霊が晴れ晴れとした笑顔で肉親をお迎えしたいお気持ち」が「以心伝心」したものと強い感動に打たれました。

今日は第五十三回秋季例大祭を迎えて多数の方が「ご参列いただき有難うございます」。私は毎回の例大祭の祭文に「今日の我が国の平和と繁栄は御英霊の気高き殉国散華のいさおしと御加護の上に築かれていることを片時も忘れてはなりません。私たち沖縄県民は、あの忌まわしい沖縄戦の傷跡を忘れることなく戦争体験者が語り部として平和の尊さを次の世代に継承し国の礎となられた御霊を守護神として永久にお祀り申し上げることが諸霊に報いる道と信じております。御英霊の皆様永久にこの御社に神鎮まりまして我が国の安泰と世界の恒久平和をお導き下さい。私達の上に限りない御加護を賜らんことを祈念申し上げます」とお誓い致しております。

今年の十月は奥武山公園二帯は大きなイベントが催されました。十月八日、十日の間は「那覇大綱挽まつり市民フェスティバル」会場となり大勢の方が見え、夜には花火が打ち上げられました。十月十三日、十六日までは「第五回世界のウチナーンチュ大会」が沖縄セルラスタジアム那覇を主会場に、二十三日から五千余名の沖縄人の血を引いた県系人が来県されて県民と交流する種々の行事が盛大に催され、ウチナーンチュの絆が固く結ばれました。十月二十一日、二十三日までは「第二十五回沖縄県産業まつり」が公園の一部を会場として催され多数の県民で賑わいました。また当神社には毎年各都道府県の遺族団が慰霊祭執行の際毎日のように参拝にこられます。この時期に当神社が立派に復興、整備されたことは大変良かったと想い「祭神もさぞかしお喜びのことと存じます。年々奥武山公園二帯が活気を呈してきた事は神社の繁栄に繋がるものと信じております。終りに臨み皆々様の今後の更なるご支援、ご高配を賜りたく切にお願い申し上げます」。

陋習を破り、新社務所時代はじまる 宮司 伊藤 陽夫



新社務所時代が始まり社頭の様相が変わりました。御神木ガジュマルの前に聳立している御製御歌の石碑から発する光は参詣者の心をなごめ、厳かなる感動をあたえています。普段の参詣者も増え、新社務所での催しものが月毎に増え、外祭地鎮祭など「出向も増えています。まさに鎮守の森の名にふさわしい奥武山（霊の山）の社頭に変貌しました」。

古来やまにおける神社の存在意義は、郷土精神文化の中心基地でありました。地域社会の精神的統合の中心であったのです。神祭りを中心として相撲や神楽や神事ゆかりの催しものが大広前にぎわい、鳥居の外には出店が並び、やがてそれが商店にもなり、いわゆる「門前市をなし」たのですが、当神社は公園の真ん中に位置しては叶わないにしても、お茶お花、書道、教養講座、時局講演などなどの会場として広く県民の皆さんに使われ始めております。

この師走には裏千家の沖縄県支部大会が新社務所の畳の間（六〇畳）で催され終日五〇〇人の茶人が出入りされます。来年卯月には、沖縄県復帰四〇周年記念を祝す表千家の第六十七回全国大会美ら島沖縄大会の家元茶席に、当神社の新社務所が選ばれています。地元新聞「琉球新聞社」から授与される「新報賞」に輝いた茅原南龍師（境内歌碑御製を御揮毫、日本書芸院理事）二派の書道研修場としても定期的に活用していただいています。さらに年末には沖縄県小学校五色百人一首カルタ大会の会場として昨年に続いて使用されます。

このように地域社会の精神文化、教育、芸術芸能、世論善導の促進興隆に貢献できる神社として、機能が整ってきました。これひとつに皆様の、今春完功した当神社御創建七十五年記念事業にお寄せ下さった御奉賛の御真心の賜物でございます。新しい革袋には新しい酒をといわれるように、もう旧態依然たる感覚や精神や洗練度だけで社務運営にたずさわっていたのでは時代要求に追いつけません。「旧来の陋習を破り」という維新の五ヶ条の御誓文にも習って、職員「同新社務所時代を迎えて心機一転、気宇広大なる展望を見定めて、御祭神・英霊の御心にお応えするべく御奉仕申しあげていく所存でございます。さらなるご指導ご鞭撻をお願い申し上げます」。

慰霊の旅

両陛下御来島の第七回目は、終戦五〇年を迎えた平成七年の八月二日のことでありました。天皇陛下は皇太子時代から「日本人として記憶しなければならぬ四つの日」を挙げられ、その日はどこに居られても、当地の式祭典の時間にあわせて黙禱を捧げて居られます。その四つの日とは、沖縄戦終結の日（六月二十三日）、広島・長崎原爆投下の日（八月六日・九日）、終戦記念日（八月一日）であります。平成七年が終戦五〇年目になるためまずその四つの日に因む土地へ、慰霊の旅につかれました。七月に長崎・広島を終えられ、八月に沖縄へと巡礼されておられます。

この時も両陛下は那覇の空港からまっ先に国立沖縄戦没者墓苑に向かわれて供花を献げられました。そのあと平和祈念公園の「平和の礎」をご覧になりました。

この「礎」には沖縄県出身の兵士のみならず、全国都道府県から出兵して戦死された兵士、そして先陣戦塵に巻き込まれ戦闘協力者ともみなされた無辜の県民たち、さらに米国、台湾、韓国、朝鮮の人々も含めて計二三万余の沖縄戦犠牲者の名前が一人ひとり国別、都道府県別に克明に刻まれ

沖縄にそそがれる大御心（参承前）

編集部

ています。

陛下は、当時知事だった案内役の太田昌秀氏に「非常にいいことをされましたね。外国の犠牲者の方の名前を刻んだ慰霊碑はほかにないでしょうね。」とねぎらいのお言葉をかけて下さったそうであります。

そのとき陛下は

沖縄のいくさに失せし人の名を

あまねく刻み碑は並立てり

とお詠み下さり、皇后さまは

クファーデーサーの苗木添ひ立つ幾千の

礎は重く死者の名を負ふ

とお詠みになられました。

先にふれた四つの日にはそれぞれに慰霊祭の行われる時刻に合わせて、毎年黙禱をして居られることが渡邊允宮内庁侍従職御用掛によって伝えられております。

かつて平成六年六月に両陛下ご訪米の砌、サンフランシスコ市長主催の晩餐会の直前、その日が沖縄県全戦没者慰霊の日（六月二十三日・沖縄戦終結の日）であったため、天皇皇后両陛下がホテルのお部屋の中

で黙禱を献げて下さったとのことでありませぬ。海外におられてもこのように大御心は沖縄に向けられているのであります。

このときのことを渡邊允氏は「天皇家の執事」（二六四頁）で次のようにふれておられます。

〔平成六年〕六月二十三日の沖縄慰霊の日にはサンフランシスコに滞在されることになりました。沖縄の平和祈念公園では、毎年、その日に沖縄戦没者追悼式が行われ、式典の行われている正午には黙禱が捧げられます。陛下はその時間がサンフランシスコの時間で何時に当たるかを調べてほしいとおっしゃいました。調べてみると、夕方サンフランシスコ市長が主催する晩餐会の始まる時間にあたっていました。そのことをご報告すると、陛下は、それでは晩餐会の始まる時間を少し遅らせてもらえないだろうかとおっしゃって、先方は快くその通りしてくれました。当日は晩餐会に出かけられる前に、両陛下で、ホテルの部屋で黙禱をなさっていました。」

なんと周到なお心配りではありませんか。この事実ははたして沖縄県民に知らされてきたのでしょうか。光を升の下にかくすように、マスメディアが邪魔をして報道を怠っていませんか。（次号につづく）



今上陛下 御製
 ミルクユニガタイ スリタルフイトキタト イクサバヌアトウニ マツユウイタシ
 弥勒世よ願て 揃りたる人たと 戦場の跡に 松よ植ゑたん

大意—平和な世を願って集まった人々とともに戦場の跡に松を植えました。

天皇后両陛下が、平成五年当県米須・山城での第四回全国植樹祭に行幸啓の砌、沖縄県に賜った御製です。当神社企画の今上陛下御即位二〇年奉祝記念事業の一環として、広く大御心をお伝えするため歌碑を建てました。平和な世を願って集まった人々とともに戦場の跡に松をお植えになったことを詠まれた琉歌です。

皇后陛下 御歌
 鹿子じもの ただ一人子を 捧げしと 護国神社に 語る母はも

大意—「お捧げしたのは、ただ一人の大切な息子でした」と、護国神社で話された母なる人が、今も深くしのばれます。

昭和四九年、皇后陛下は、皇太子妃として三県にわたり護国神社にお参りになっており、そのいずれかの折にお詠みになった御歌です。「鹿子じもの…」は「ただ一人の大切な子」を意味し、護国神社で会われた遺族への深いお気持ちが詠まれています。

御製揮毫者
茅原 南龍 先生
 (沖縄県石垣市出身)

茅原書藝会主宰 書道愛好者、書道文化の普及拡大に努め、県内外約6000人の会員を指導。昭和59年に「日展」に初入選し以後24回の入選、平成15年には沖縄県初の特選を受賞。沖縄国立劇場前の天皇陛下御製の歌碑を始め県内随処の石碑など多数揮毫。

御歌揮毫者
柏木 白光 先生
 (大分県中津市出身)

昭和63年毎日女流展グランプリを受賞、以後同審査員を歴任、その他多数書道展に入賞。また音楽家とのジョイントで揮毫するなど世界で活躍の場を広げる。「墨アート」の世界を確立し神社などに奉納。機関紙「神社新報」や「読売新聞」の題字なども手掛ける。成田空港には7mの「般若心経」が掲示。

天皇陛下御即位二〇年 両陛下御成婚五〇周年記念 歌碑建立除幕式

四月二十三日、春季例大祭並びに御創建七十五年記念事業完功奉祝祭典に先駆けて天皇陛下ご即位二〇年天皇后両陛下御成婚五〇年記念歌碑建立除幕式が行われました。十二時四十五分に行われる予定の除幕、朝から降り続く雨の中準備は進められておりました。除幕一分前十二時四十分雨が突如やみ歌碑を覆うテントを即座に外し見事に除幕式が斎行されました。



▲歌碑は久米島の久米石を使用。高さ2m50cm(台座含む)

この不思議な天気はまさに両陛下の沖縄へ対する御心と思わざるを得ないほどの出来事でした。

り綱が引かれると会場からは大きな拍手と歓声があがり、境内には光が放たれたように素晴らしい歌碑が顕れました。

この建碑に至るまでのエピソードは当社発行「うむい小」二号にてご紹介しましたが、伊藤宮司が平成二十一年に皇居勤勞奉仕に団長として加わったその折に、畏くも皇后陛下から団長であった宮司へ賜った御歌集「瀬音」に付箋で御しるしの「御歌」を頂いたことに始まります。

この度、当社御創建七十五年事業完功奉祝祭に合せて除幕が出来ましたことは、望外の慶事となりました。

その後六月二十一日歌碑の建立を両陛下にお伝えするべく宮司が皇居に参上しこの歌碑の写真をアルバムにしたものを、

天皇皇后両陛下に献上致しました。そのアルバムは侍従より両陛下の御手に届けられたそうで、侍従よりご報告を頂きました。このことだけでもありますが、さらに八月八日に改めて侍従より当社にお電話を賜り両陛下より「ありがとう」の御礼のお言葉のご伝言を賜りました。

両陛下のお心配りにた



▲右から山城会長、茅原先生、座喜味会長、伊藤宮司、柏木先生、山城社長

ただただ感謝申し上げるばかりです。

来秋は沖縄が開催地となつて行われる「豊かな海づくり大会」に行幸啓賜ることとなっている両陛下に、是非とも当社へご親拝賜りこの歌碑を一目ご覧賜われればと願つてやみません。大御心そのものが歌碑に乗り移っているかの如く歌碑は参拝者に光を降りそそいで下さっています。



▲「奉納舞」倭 瑠七さん



▲沖縄県遺族連合会会長：仲宗根義尚氏



▲大祭委員長：座喜味和則氏



▲「御奉茶」茶道裏千家淡交会沖縄支部



▲黙祷するご遺族

詞奏上では宮司が記念事業の報告を申し上げるとともに東日本大震災のご安寧と一日も早い復興を願い、御霊たちにこの大和の国を護り導き給えと奏上しご参列の皆様とともに祈り申し上げました。次に、大祭委員長座喜味和則氏、沖縄県遺族連合会会長仲宗根義尚氏による祭文が奏上され、座喜味大祭委員長はこの記念事業の完功は御祭神の御加護によるものと感謝申し上げます。さらに、茶道裏千家淡交会沖縄支部による御奉茶また御奉茶があり、倭瑠七さんによる舞「桜」が奉納されました。

御創建七十五年記念事業 完功奉祝祭典齋行



東日本大震災から一カ月が過ぎた四月二三日、春季例大祭に併せて御創建七十五年記念事業完功奉祝祭典が齋行されました。県外よりお祝いに駆けつけていただきました兵庫県生田神社宮司加藤隆生様を始め明治神宮、長田神社の宮司様、さらに秋田、広島また九州の護国神社の宮司様にもご臨席賜り、北は北海道を始め各県から約五百名のご遺族がお集まりになりました。祭典は盛大かつ厳粛に行われ、黙祷、国歌斉唱に続き修祓、献饌と続き、祝

県内外から五百名参集





▲歌手のみならず脚本家
舞台女優としてもご活躍の
三枝万祐さん



▲那覇基地太鼓部「鼓風」のみなさん



▲若葉保育園の園児たち



▲社務所ホールにて直会



▲直会にて優瑠七さん外による清興



▲波上宮獅子舞保存会の
みなさん



清興では拜殿前にて那覇基地太鼓部「鼓風」による和太鼓を始め波上宮獅子舞保存会のみなさん、さらに那覇市与儀にある若葉保育園の園児のみなさんによるエイサー太鼓なども奉納頂きました。最後は新しく塗り替えられた神楽殿にて、歌手の三枝万祐さんの「語りと歌」コンサートがあり、昭和の抒情歌や唱歌、世界の愛の歌を中心に歌われ、遺族のみなさんも一緒に口ずさみ、幼いころや戦争中を思い出し涙を浮かべておられました。こうして御遺族の皆様とともに御創建七十五年をお祝いし見違えるほど立派な社務所に一同感激され、神社の歴史に残る荘厳なお祭りとなりました。

祭典後は賑々しく清興

感謝状 表彰者(敬称略)

- 〔設計・施工業者〕
- (有)設計集団 閃
 - (株)太名嘉組 (株)共洋土建建築企業体
 - ヤマ工業(株)
 - 三協電気工事(株)
 - 國和設備工業(株)
 - (有)恩納アルミ工業
- 〔高額奉納者・三十万円以上〕
- 沖繩県遺族連合会
 - 伊藤 陽夫
 - 加治 順人
 - (財)沖繩県傷痍軍人会
 - グリーン産商(株)
 - 宮里 洋子
 - 又吉 眞興
 - 渡辺 尚武
 - 牧 清
 - 吉武 進
 - 細野 静江
 - 久保田 照子
 - 西川 ユキ
 - 龍華会
 - (株)富士開発
 - (株)仲本工業
 - 新日本工業(株)
 - 沖繩土地住宅(株)
 - 沖繩製糖(株)
 - 幸田 かね
 - 時田 ミユキ
 - 鱈 文子
 - 野阪 重信
 - 札幌市連合遺族会第三十三次戦没者遺骨収集団
 - 浅田 興屋
 - 英霊にこたえる会沖繩県本部
 - (社)沖繩海友会
 - 北海道沖繩会
 - (有)阿波根商事
 - (株)南都
 - (株)神路社
 - 嶺井 政治
 - 梅田 光枝
 - 福岡 英男
 - 桑江 良達
 - 吉澤 吉治

42の団体個人へ感謝状

記念式典では御来賓代表挨拶に、生田神社宮司加藤隆生様、沖繩県神社庁副庁長新垣義夫(普天満宮宮司)様のお二方に「祝辞を賜りました。その後工事に携わった設計また施工業者、また三十万円以上の御奉賛を頂いた団体個人の方それぞれへ感謝状と記念品を贈呈致しました。本来であれば御奉賛頂いたすべての方にも感謝状を差し上げるべきではありますが、現在編集中の記念誌の贈呈を以って替えさせて頂き、十月刊行後お届けの予定です。なお境内の芳名板に御奉賛の一一四〇名の方々の御芳名を掲載させて頂いております。(表彰された方は上記の通りです。)



▲鱈 文子 様



▲吉武 進 様



▲細野 静江 様



▲札幌市連合遺族会
会長 西川 喜昭 様



▲表彰された方々

第四回 総代会 開催

発足からはや二年、社務所も新しくなり新役員

平成二十二年に発足致しました、当社社総代会は社社の理解者、協力者いわばサポーター役として常に支えて戴いております。

早くも本年は任期満了に伴い役員改選の年を迎えることとなり、八月八日(月)第四回総代会が社務所二階会議室に於きまして開催されました。

社務所竣工から初の総代会で、また新しい香りの会議室での会議は気持ちも新たに審議がなされました。総代の皆さんのほか神社役員六名にもご出席頂き、今後の神社発展また神社の役割についても話合う機会となりました。

また、総代代表に比嘉良雄氏(オリオンビル顧問)、副代表に宮城繁氏(傷痍軍人会会長)がそれぞれ再任されました。新体制は再任十七名、新任八名計二十五名の方々にご就任戴きました。

(下記名簿参照)



沖縄県護国神社 総代会名簿

◎総代代表 ○総代副代表

平成23年8月8日現在

- 遺族会**
- 再任 新門 竹一 沖縄県遺族連合会 副会長
 - 再任 鳥袋 秀子 沖縄県遺族連合会 副会長
 - 再任 赤嶺 進 沖縄県遺族連合会 女性部長
 - 再任 大嶺 正光 那覇市連合遺族会 会長
 - 再任 富山 幸宏 沖縄県遺族連合会 事業委員
- 英霊協賛団体**
- 再任 宮城 繁 沖縄県傷痍軍人会 会長
 - 再任 宮城 篤正 英霊にこたえる会沖縄県本部 運営委員長
 - 再任 小西 忠 (社)沖縄海友会 副会長
 - 再任 中地 昌平 日本会議沖縄県本部 会長
 - 新任 富山 正範 自主憲法制定沖縄県民会議 副会長
- 経済界**
- ◎再任 比嘉 良雄 オリオンビル(株) 顧問
 - 再任 大城 宗憲 (株)南都 代表取締役社長
 - 再任 仲本 興成 (株)工業(株) 代表取締役会長
 - 再任 山内 昌宏 (株)山内産業 代表取締役社長
 - 再任 大城 博立 那覇青年会議所 理事長
 - 再任 長濱 文子 長濱企業グループ 会長
 - 新任 赤嶺 和雄 (株)ビジネスランド 代表取締役社長
 - 新任 松島 寛行 (株)京和土建 会長
 - 新任 友利日出夫 三協電気工事(株) 代表取締役社長
- 女性団体**
- 再任 秦 宗文 (社)茶道裏千家淡交会沖縄支部 指導者会会長
 - 再任 熊谷フサ子 日本和裁士会沖縄県支部 支部長
 - 新任 久保田照子 久保田照子チャームスクール
- その他**
- 新任 垣花 恵蔵 沖縄むすび会 会長
 - 新任 上地 宏和 奥武山公園運営管理事務所 所長

戦後六十六年目のみたま祭り

みたま祭り

八月十五日正午、戦後六十六回目のみたま祭りが英霊にこたえる会沖縄県本部共催、後援に沖縄県遺族連合会、また本年から日本会議沖縄県本部のご協力により斎行されました。

本年も参列者一同正午の黙祷のあと天皇陛下の御言葉をラジオから拝聴し祭典は始まりました。宮司祝詞奏上のあと英霊にこたえる会沖縄県本部会長座喜味和則氏が祭文を奏上上げました。



本年は祭典終了後に社務所大會議室に於いて、日本青年協議会発行の『祖国と青年』(機関紙)編集長鈴木由充氏により「両陛下の御心と沖縄戦の英霊をお慰びして」との演題で講演を行っていたことができました。両陛下が特に沖縄にお心を寄せられてい

ることを改めて拝聴しました。後半は演題の内容で鈴木氏と伊藤宮司が対談し引き続きお話し頂きました。大御心を始め遺骨収集や硫黄島などが話題にあがり参会者との意見交換も行われました。

「財」沖縄県傷痍軍人会 沖縄県傷痍軍人妻の会

六月二十二日沖縄の慰霊の日を前に、「財」沖縄県傷痍軍人会(会長 宮城繁) 沖縄県傷痍軍人妻の会(会長 山田千代子)により「夫婦像」が境内に建立され除幕式が行われました。戦後六十七年の月日が流れ会員の皆様もご高齢になられ、昭和二十九年の結成時には会員数二千六百三十名余いた会員も現在四百七十四名と減少、ついに平成二



「夫婦像」建立

十五年に残念ながら解散せざるを得なくなるといふことで、傷痍軍人の皆様より思いを後世に残し

たい、また更なる恒久平和を祈念して境内に夫婦像の設立をさせていただきました。いとお話がありました。そして、この度境内参道脇に見事に建立されました。像の台座裏には罪がつけられ、そこにはタイムカプセルが埋められました。傷痍軍人またご婦人の方々想いや品物が納められご英霊もさぞかしお喜びのことでしょう。当社社で永久にお護りさせて頂くことになりました。



社務日誌抄

平成二三年四月〜平成二三年九月

- 4月
 - 3日 外国人参政権に反対する会代表 村田春樹様正式参拝
 - 22日 宵宮祭
 - 23日 天皇陛下ご即位二〇年両陛下御成婚五〇周年記念歌碑建立除幕式
 - 23日 第五十三回春季例大祭並びに 沖縄県護国神社御創建七十五年記念事業完功奉祝祭典 昭和祭
 - 29日 昭和祭
- 5月
 - 1日 沖宮例大祭西谷権欄宜参列
 - 3日 自主憲法をつくる国民会議理事 小林正様外正式参拝
 - 5日 生天光神明宮例大祭高良権欄宜補参列
 - 9日10日 九州連合神職総会宮司・木村権欄宜・高良権欄宜 補熊本出張
 - 14日 佐賀自然に学ぶ会代表下田純子様外3名正式参拝
 - 14日 建て直そう日本女性塾幹事長 伊藤玲子様正式参拝
 - 14日 日本会議事務総長梶島有三様正式参拝
 - 15日 祖国復帰記念祭
 - 17日 波上官例大祭宮司参列
- 6月
 - 28日 舞ヨリガ南無阿弥陀団奉納
 - 4日 久士十海上挺進鎮魂碑慰霊祭
 - 4日 新しい歴史教科書をつくる会 会長藤岡信勝様正式参拝
 - 10日 本渡諏訪神社宮司大野康孝様正式参拝
 - 12日 14日 神道講話全国協議会木村権欄宜・高良権欄宜補参加
 - 13日 海軍の塔慰霊祭宮司局長参列
 - 14日 靖国神社中山雅雄様神社本庁 高橋知明様正式参拝
 - 17日 しづたまの碑慰霊祭宮司・高良権欄宜補奉仕
 - 18日 茅原書藝会茅原南龍様外70名正式参拝
 - 18日 政治結社大行社高知支部6名正式参拝
 - 19日 明星大学教授高橋史郎先生正式参拝



▲明星大学教授 高橋史郎先生(右)

- 30日 水無月の大説い
- 7月
 - 16日 弁護士南出喜久治様外正式参拝
 - 17日 国際平和研究所所長渡邊芳雄様正式参拝
 - 29日 日本赤十字贈呈式局長出席
 - 31日 坂東忠信様正式参拝
- 8月
 - 3日 二葉節子様・下野千恵子様正式参拝
 - 8日 第四回沖縄県護国神社総代会
 - 15日 終戦記念日みたままつり
 - 17日 群馬県遺族の会14名正式参拝
 - 23日24日 九州地区神道青年研修会



▲本殿にて英雲顕彰祭を終え宮司の講話を熱心に聴く学生たち(9/16)

木村権欄宜・高良権欄宜補熊本へ出張



10月1日、日本会議沖縄県本部主催により sengoku38 こと一色正春氏の講演会が社務所ホールにて行われました。講演に先立ち講師の一色氏に本殿にて正式参拝を頂きました。200人入るホールは溢れるほどの聴衆で大盛會に終わりました。

- 9月
 - 7日 靖国神社権宮司 小方孝次様・神道政治連盟幹事 長打田文博様外三名正式参拝
 - 12日 琉球絃道館代表 松本道弘様外8名正式参拝
 - 14日 平和大使協議会 副会長梶栗雅義様正式参拝
 - 15日 識名宮例大祭宮司参列
 - 16日 全日本学生文化
- 28日 世界日報社早川一郎様正式参拝



▲衆議院議員 河野太郎氏



9月26日自民党沖縄県第一選挙区支部(支部長:國場幸之助)主催の「ふるさと対話集會」が当社を会場として行われました。講師には衆議院議員河野太郎氏がお越しになりました。

- 17日 會議正式参拝
- 23日 茅原書藝会ひらがな錬成会正式参拝
- 23日 秋季皇靈祭通拜式
- 26日 修養団捧誠会神石祭宮司参列・欄宜・高良権欄宜補奉仕 衆議員議員 河野太郎様正式参拝
- 28日 神社庁大麻歴頒布始祭宮司参列・前原・木村両権欄宜奉仕
- 28日 那覇遺族会25名正式参拝

茅原書藝会

心清らに錬成会

社務所ホールにて



境内歌碑御製の揮毫者 茅原南龍先生主宰「茅原書藝会」の第一

回高大展向け錬成会が六月十八日(土)当神社ホールにて行われました。錬成会に先立ち茅原先生以下参加者一同ご神前にて正式参拝をして錬成会はスタート。神域での錬成会は初めての事だそうので、参加した学生さんたちは真剣に集中して作品に取り組んでいたようです。良い成績が修められることお祈りいたします。

また、九月十七日には大人の生徒さんによる「ひらがな錬成会」が同様に行われました。このような錬成会は今後も当神社の会場で定期的に行われていくそうです。社務所が様々な文化活動教化活動の場として頭書の目的を果たし始めています。

- 21日 宮内庁へ歌碑建立報告並びに アルバム献上のため宮司出張
- 22日 (財)沖縄県傷痍軍人会・沖縄県傷痍軍人妻の会「夫婦像」竣工奉告祭並びに除幕式欄宜・木村権欄宜奉仕・会長・宮司参列
- 22日 第三十二軍司令部戦没者六十六年勇魂の碑慰霊祭宮司・前原権欄宜・高良権欄宜補奉仕
- 22日 埼玉県遺族連合会45名正式参拝
- 23日 沖縄全戦没者慰霊祭
- 23日 徳島県遺族会27名正式参拝
- 24日 音更神社20名正式参拝
- 25日 (株)キャリアアコンサルティング28名正式参拝
- 26日 アルピニスト野口健様外12名 遺骨収集報告正式参拝

台風当たり年

沖縄の夏といえば、青い海青い空、それからもう一つ台風でしょうか。ここ数年温暖化の影響が台風のコースが変わり大きな台風は来なくなったのかと思っておりました。しかし、やはり台風はやってきました。さらに今年は当たり年のようで台風2号から始まり5号8号15号と次々に見舞われました。特に2号台風では社殿自体には被害はなかったものの樹木は何本も折れ復旧に時間を要しました。毎年この時期はヒヤヒヤします。しかし、今年は沖縄だけではありませんでした。日本列島全部に被害をもたらした台風15号で被害に合われた皆様にかかれましては大変怖い思いをされたことと思います。また、お亡くなりになられた方々のご安寧を心よりお祈り申し上げます。



永代命日慰霊祭のご案内

永代命日慰霊祭はご遺族からのお申込みにより行われます。ご命日の午前十二時より宮司齋主により齋行される慰霊祭です。



※申込み初穂料として二万円以上をお納め頂きます。お問い合わせ 〇九八八五七二七九八 (沖縄県護国神社事務所)

Table listing names and addresses of donors for the memorial service, organized by region (e.g., 東京都, 北海道).

永代命日慰霊祭新規申込者御芳名

Table listing names and addresses of new donors for the memorial service, organized by region.

Table listing names and addresses of donors, including a section for '千葉県市川市 (株) 仲本工業' and various regional associations.

Table listing names and addresses of donors for the memorial service, organized by region.



▲「芭蕉布」鈴木当志子 様

献詠 神戸市在住 出店智恵呼 様
沖繩のすめろぎの碑に 淑気満つ
ガジユマルの雨晴れ涼し 歌碑開き
この雨は 乙女の涙 歌碑涼し
ガジユマルに 近き御製碑 風薫る
涙雨晴るる涼しき 歌碑開き
沖繩の 御製碑涼し 香氣あり
ガジユマルに 雨宿りする 花の雨



「沖繩のすめろぎの御製碑建立に」と題して献詠を頂きました。
歌碑除幕式に参列された方の写真をご覧になってこの句を詠まれたそうです。この中の「ガジユマルの雨晴れ涼し 歌碑開き」は「ホトトギス」(ホトトギス派句誌左写真)に入選作として掲載されたそうです。
皆様も沖繩へお越しの際は是非歌碑をご覧ください。

記事夢成
この程建立した両陛下の歌碑にはパワーがあるらしい。参拝者は皆立ち止まりしばし眺め、敬礼していく人も居る。先日チベット人が参拝に来たときの事。
歌碑の前に立つたこれ以上近づけないと五メートル以上離れたところに膝間付き、雨上りのぬかるんだ地面に平伏した。「光を受けた」といい後ずさりして帰った。やはりこの歌碑には不思議な力があるのだらう。両陛下の御製御歌に目に見えないものが働いていると思える。
両陛下の御心そのものである。他にも硫黄島ではこんなエピソードがある。毎日夜になると浮かばれない御霊たちの浮遊の仕業があるらしいが、両陛下がご巡幸された夜だけは何事もなかった。両陛下下はいつも国民の平安を祈り、かたときも慰霊の祈りを欠かされることはない。特に沖繩に心を寄せて下さる両陛下は、来年初に沖繩県へ行幸啓されることになっている。さらに来年は沖繩県が祖国復帰してから四十年の節目にあたる。このタイミングで当社が記念事業を歌碑建立の除幕で飾って終えることが出来たのは、単なる偶然と言えるだろうか。(乃)

Table listing names and addresses of donors for the memorial service, organized by region.

県内外の遺族会の皆さまへ

9月28日 那覇遺族会25名の皆様をご参拝されました。遺児・特弔受給者研修懇親の「施設見学会」ということで、一行は朝から海軍壕や新しくできた県警察運転免許センター、沖縄セルラースタジアムなどを見学し最後に当神社へお参りするという工程を計画されました。

神社へ到着した一行は正式参拝をされたあと、社務所をご見学され、その後伊藤宮司の講話を1時間聴講しました。このような企画は神社も大歓迎で

す。計画された事務局の皆さんに感謝いたします。

御遺族の皆様にご利用いただくためこの社務所は建てられましたので、こちらも様々な形でご協力させていただきますたく思います。遺族会の皆様ご検討下さい。皆様のお越しをお待ち申し上げます。



初詣

平成24年(辰年)の厄年表

辰年生まれ(新暦)		男性 (数え年)	女性 (数え年)
平成12年生まれ	昭和27年生まれ	昭和63年生 25歳本厄	平成6年生 19歳本厄
昭和63年生まれ	昭和15年生まれ	昭和47年生 41歳前厄	昭和56年生 32歳前厄
昭和51年生まれ	昭和3年生まれ	昭和46年生 42歳本厄	昭和55年生 33歳本厄
昭和39年生まれ	大正5年生まれ	昭和45年生 43歳後厄	昭和54年生 34歳後厄

初詣(三が日)のご案内

祈願受付時間 8:00~20:00

※なお4日から5日午前までは仕事始めの会社祈願のため個人でのご祈願は受付できません5日午後以降はご確認ください。

お守の授与所 24時間開設

※なお4日以降は時間の変更がございますご確認ください。

詳しくは神社へお問い合わせください。 ☎098-857-2798

平成23年七五三詣ご案内

男の子

かぞえ3歳(平成21年生まれ)
かぞえ5歳(平成19年生まれ)

女の子

かぞえ3歳(平成21年生まれ)
かぞえ7歳(平成17年生まれ)

神社へお参りし、お子様の健やかなご成長を祈念いたしましょう



編集後記

ここ奥武山の中心に出現した新社務所、旧社務所をご存じの方は目を疑うほどの変貌に驚くでしょう。破功奉祝祭では参列されたご遺族を始め、皆様からの慶びの声を頂きました。ご祭神もさぞかしお気に召していたたけなことと思います。紙面も潤いを益して参りました。今後の神社の往くへにこ期待ください。

発行 平成二十三年十月日

発行所 沖縄県護国神社

〒900-0001

沖縄県那覇市奥武山町四四番地

TEL 098-857-2798

FAX 098-857-7917

HP www.okinawa-gokoku.jp/

編集担当 前原 万岐

印刷所 株式会社近代美術

沖縄県護国神社新職員紹介



巫女 岸本美奈

暖かな御指導を賜りながら、日々学ばせて頂いております。未熟で至らぬ点はございますが、一生懸命にご奉仕させていただきますと思います。



巫女 新垣ともみ

新しい環境、初めてのことばかりで不安もありますが、多くのことを学ぶことができます。誠心誠意ご奉仕させていただきます。よろしくお願いいたします。

記念事業完功紹介



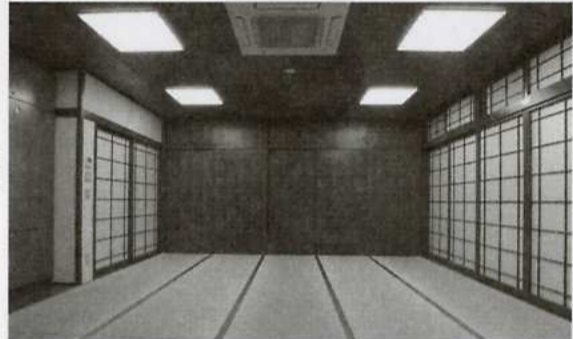
正面からの概観



正面ホール エレベーター



奥武山公園からの概観



祈願控室



斎館



中会議室(和室60畳)



2階の大会議室



縄になった境内の手書き



外観の植栽



敷地全体には主に桜を植樹



上りやすくなったスロープ

御創建75年記念事業完功奉祝祭典を斎行

天皇皇后両陛下の歌碑除幕

沖縄県護国神社

平和の尊さ次世代に継承を

座喜味和則 大祭委員長 平和の尊さ次世代に継承を
沖繩護国神社(那覇) 露目された。
市は四月二十三日、第
五十三回奉例大祭及び
御創建七十五周年記念事
業完功奉祝祭典を盛大に
斎行し、団体役員や遺族
関係者約四百五十人が
参列した。
参列した。
参列した。



天皇皇后両陛下による二
つの歌碑、写真左の除
幕式が神社境内で行れ
た。天皇陛下御即位二十
年奉祝事業の一環として
歌碑が完成、拝殿前のガ
ジナルの樹の前にお披露
出された。
歌碑の揮毫は
龍民と柏木白光氏。



祝詞を奏上する伊藤陽夫宮司

大祭委員長の座喜味和
則と副委員長の伊藤陽夫
宮司が、戦前・戦中・戦後
という言葉も忘れられつ
つあり、平和の尊さを次
の世に継承していきま
しょう。
御霊を永遠に
祀ることは御霊の恩に報
いることになりま

國植樹祭で詠まれたも
の。伊藤宮司は、「沖繩
県民にとってもっとも相
応しい場所に歌碑が置
かれた」と語った。



祭文を奏上する座喜味和則 大祭委員長

護国の大神 国護るらむ

沖繩護国神社宮司 伊藤陽夫

護国の大神 国護るらむ
しかし今は、東日本大震
災の被災者への御加護を
念ずるばかりです。
世界が認めるところ、
被災者への御加護を
念ずるばかりです。
世界が認めるところ、
被災者への御加護を
念ずるばかりです。

東日本被災者への祈り

東日本被災者への祈り
「辞別して白きへ、
べきに、つらみ進み狂か
す。
東日本大震災の大津波
しめ給ひ、速く幸
に更には和魂にて成
らせ給ひ、日日に余
く玉の緒を絶えたる御
霊たちを平穏に守り
しむ諸人の身を、
導き給ひ、幽世のしがる
心をも平穏に守り導き

祝 沖縄県護国神社 御創建75年記念事業完功

神社の「杜、社」は、古代より畏敬をもって祭られ、大切に守られ、常に日本人の精神的支柱として欠くことのできない存在でありました。単に宗教的施設にとどまらず、地域社会の政治、経済、文化、思想などの中枢はたらしをしてきました。今回我々は、このような鎮守の森「神社」と関わり、設計する光栄な機会に恵まれました。「現代の鎮守の森」の創造を目指し、建物と傾斜地を連結、連続させ敷地の隅々まで、アクセスすることを考え、敷地全体の回遊性を確保しました。

この宗教法人沖縄県護国神社が、此の度の設計建築により、光と静寂の中、豊かで自立した空間を形成し、周囲の公園とも協働し、都市の中の「現代の鎮守の森」として活用され、人々の精神的支柱として欠くことのできない存在となることを期待しています。

新事務所建築のコンセプト

外観は和洋折衷による伝統的威厳と現代的瀟洒を意匠し、内部はゆたの憩いを旨に、各部屋の用途・連携に意を注ぎ、壁・床・天井などの色彩も配慮されています。玄關入り口の構えは、英霊への畏敬の心を誘うデザインが施されており、参拝者・祈願者を迎える控室、手水、拝殿廊への導線はもとより、休憩・集会の空間にゆとりをとっています。神社事務所特有の機能的要素も、快適・便宜さをベースに完備し、潔斎・着装・参籠等の斎館や、参集殿としての機能も備えています。更に外装の壁廻り、柱の色彩は平城京の大極殿を彷彿とさせ、屋根の傾斜は皇居長和殿のゆるやかな三寸勾配と同じく長く伸びやかな棟の構造も期せず一致しています。申すまでもなく屋根瓦は、沖縄伝統瓦の美の粋をとっています。建材が鉄筋コンクリートである理由は、沖縄常襲の強烈な颱風や強い紫外線を防ぐためであり、また、神社境内地が周辺より10メートル近くも高いためこの建物で土留め(擁壁)を兼ねた鞏固な造りにする必要があったためでもあります。この高低差がある雑木斜面を切り崩し、土留めを施し境内の平面から下へ二層を加え、三層構造(三階建て)を企てることによって、ご本殿(一階建て)の高さをこえない工夫と成り、境内地活用最大限の建築面積、幅20メートル、長さ40メートル、即ち800平方メートルという空間を確保することにも成功しています。



テープカット 右から、設計:設計集団閃 松田社長、座喜味会長、伊藤宮司、施工:太名嘉組 名嘉社長



設計・監理
有限会社 設計集団閃
代表取締役 松田幸吉
沖縄県那覇市泊2丁目1番地の10
TEL: (098) 863-5970



建設工事共同企業体
株式会社 太名嘉組
代表取締役社長 名嘉 謙
沖縄県那覇市平2丁目1番1号
TEL: (098) 878-9558



◇祭典行事の御案内

当社社では御祭神の御勲徳を仰ぎ 左記に
より諸祈願祭を御奉仕申しあげております

※慰霊顕彰祭

永代慰霊命日祭

初詣

神前結婚式

安産祈願

初宮詣

七五三詣

※土木安全祈願

地鎮祭

起工式

増改築奉告祭

家屋清祓式

移転及び開所式

竣工祭

※諸祈願祭

交通安全祈願

社運隆昌祈願

厄年祓祈願

家内安全祈願

家業繁栄祈願

船舶清祓

進学就職祈願

旅行安全祈願

病氣平癒祈願

歳寿報賽式

商売繁盛祈願

その他

詳細については当社社務所
まで御連絡御相談下さい。

社務所 沖縄県護国神社

〒900-0026

沖縄県那覇市奥武山町四十四番地
TEL(九八)八五七一七九八
FAX(九八)八五七一七九八
<http://www.okinawa-gokoku.jp/>

沖繩県護国神社の由緒

沖繩県護国神社はもと招魂社と称し日清、日露の戦役以降国難に殉ぜられた御英霊を奉斎し、昭和十五年七月一日内務省令第四〇七号を以て指定護国神社となった。

しかし、昭和二十年四月の米軍上陸作戦にて戦災を被り社務所を残し本殿、拝殿が焼失した為、昭和三十四年四月に仮社殿を竣工し、戦後第一回の春季大祭を斎行、また同年の秋季大祭には靖國神社から御霊代を奉移し、靖國神社池田権宮司外四名の神職奉仕のもと、厳肅盛大な祭典が斎行された。

昭和四十年十月に沖繩県護国神社復興期成会の尽力により現在の本殿、拝殿が竣工し、同年十一月十九日遷座祭、二十日二十一日には天皇陛下から幣帛が御奉納され北白川祥子様、坊城神宮大宮司、佐々木神社本庁統理、筑波靖國神社宮司夫妻、全国知事会代表木下大分県知事が参列され池田靖國神社権宮司外八名の神職により奉祝祭が斎行された。

御祭神は郷土関係靖國の御英霊をはじめ、先の大戦にて郷土のため敢然と立ち向かわれた郷土出身軍人軍属並びに、沖繩方面作戦にて殉ぜられた本土出身の御英霊を合祀するほか、戦争の犠牲となられた一般住民、遭難学童及び文官関係戦死者のみたま、合わせて十七万七千九百十二柱をお祀り申し上げている。

主な祭典として、春秋の例大祭と六月二十三日の沖繩戦戦死者総合慰霊祭、八月十五日のみたま祭りのほかに毎月一日、二十三日に月例祭を斎行する。

那覇市奥武山 沖繩県護国神社

北青岩秋山宮福新枋群茨千埼東神山静愛長富石福岐滋三	海森手田形城島湊木馬城葉玉京奈梨岡知野山川井阜賀重	道県県県県県県県県県県県県県	陸軍少佐 陸軍少佐 陸軍大佐 陸軍少将 陸軍中佐 陸軍少将 海軍少将 陸軍中佐 陸軍中佐 陸軍少将 海軍中將 陸軍中佐 海軍中佐 陸軍中將 陸軍中佐 陸軍中將 陸軍大佐 海軍中將 陸軍大佐 陸軍中將 陸軍中佐 陸軍中將 陸軍大佐	吉三岩石西作佐羽富町中黒藤横雨鈴近有木士鈴松生藤	田浦瀬垣沢間藤田村大黒藤山宮木藤賀谷田木原駒井	勝出岩誠勇正雄次一卯之實巖雄重巽良卓幸氏勤繁吟寛英太郎	命以下 命以下	10,090柱 550柱 630柱 433柱 771柱 582柱 942柱 1,111柱 434柱 858柱 523柱 1,660柱 1,037柱 2,480柱 438柱 532柱 1,683柱 2,517柱 1,237柱 632柱 883柱 1,135柱 820柱 1,695柱 2,853柱	奈良和歌山京都大阪兵庫鳥取岡山根島山口香徳愛高福佐大長熊宮鹿(陸	陸軍中佐 陸軍少将 陸軍大佐 陸軍少将 陸軍中將 陸軍少将 陸軍中佐 陸軍少将 陸軍少将 陸軍中佐 陸軍大佐 陸軍少将 陸軍中將 陸軍少将 陸軍大佐 陸軍中將 陸軍少佐 陸軍大佐 陸軍大將 陸軍少佐	才田勇太郎 田玉昶純三徳太郎美三保与明勉乙均男一鉄清春辰眞	命以下 命以下	483柱 833柱 2,538柱 2,202柱 2,637柱 539柱 1,635柱 562柱 1,360柱 842柱 1,010柱 934柱 2,040柱 813柱 2,314柱 914柱 977柱 1,566柱 1,783柱 1,847柱 2,576柱 781柱	沖繩県 陸軍 屋比久孟治 命以下 110,981柱	総柱数 177,912柱
---------------------------	---------------------------	----------------	--	--------------------------	-------------------------	-----------------------------	--	---	----------------------------------	--	----------------------------------	---	--	---------------------------	--------------

(平成二十年四月調)

※戦没者の名簿を閲覧したい方は社務所までおこし下さい。
※柱数については追加合祀のつど異なります。